

世界の人とふれあいタイム

2011年2月6日 実施

今回のゲストのアルフメイデイさんは、2004年来日し日本語学校で日本語を習得し、現在は東京工科大学大学院でコンピュータサイエンスを学んでいます。来日した理由は、日本語及びビデオゲームを学ぶ事です。

はじめに現在クウェートで使用されている言語はアラビア語で、世界中の22カ国で使用されていて、約2億3000万人の母国語です。なお、アラビア語は複雑そうですが、28文字からできていて習いやすいとの事でした。



アルフメイデイさん

次にイスラム教について説明してくれました。

＊誤解1:イスラム教の女性であればベールを着用する必要がある。

フランスでベールを着用するイスラム教の女性の調査が行われ、300万人の女性のうち367人のみです。ベルギーにおいてはイスラムの人口が50万人で50人以下です。ちなみにアルフメイデイさんは銀座で一度ベールを着用する女性を見たそうです。ベールを法的に必要とする国(サウジアラビアとイラン)がありますが、この両方の国の人口は世界のイスラム教の人口の5パーセント以下です。なおベールを禁止するイスラム教の国の数は、ベールを必要とする国より多いのも事実です。

＊誤解2:イスラム教徒=アラブ人?

イスラム教徒とアラブ人の区別が解らない方が多くいるので、アラブ人とイスラム教徒という言葉が類似語として扱われています。参考までにイスラム教徒の人口数が多い国の1位は、インドネシアでアラブの国ではありません。つまり、アラブ人であっても必ずしもイスラム教徒であるという事ではありません。

また来場者からの質問の回答で、クウェートでは一夫多妻制ですが、アルフメイデイさんの家庭では母親一人で子供たちを育てたそうです。

次に日本については、日本人であれば一生を過ごすために素晴らしいところですが、外国人であればそうとは言えません。その理由は、アメリカの同時多発テロ事件以降、日本でも2007年から全ての外国人の指紋が登録されるようになったからです。一方、日本の良いところは、大学は卒業するために学ぶのではなく、学ぶために学ぶと習った(?)事と、あまり自分の意見を他人に押し付けないことです。また技術に関しては、ネットワーク・インフラが進んでいる事です。

将来は、アルフメイデイさんの夢である、中東ではじめてのゲーム会社を設立したいそうです。

アルフメイデイさんには「日本



クエートタワー

との架け橋を」... アルフメイデイ兄弟(左から2番目が本人)と願っています。

報告者:生山龍哉
世界の人とふれあいタイム委員

医療通訳ボランティア研修について

外国人市民への医療支援を目的として、昨年10月に発足した「医療通訳ボランティア調査研究プロジェクト委員会」では、これまで5回の委員会を開き、どのような形での支援が可能か議論を重ねてきました。この間、日本語を学んでいる外国人に医療についてのアンケートを取って現状を把握し、また近隣の国際協会等の医療通訳ボランティアの活動状況も調査し、当委員会としての方向性を検討してきました。すでに協会から語学ボランティアを派遣した実績のある病院との連携も、より確固としたシステムとすべく派遣依頼書等作成中です。医師会の協力を得て、多言語問診票の配布も近く実施されることとなり、体制が整いつつあります。一方で医療通訳はボランティアであっても相当の責任を伴うことであり、専門的な用語の習得も必要です。このような状況の下、協会の語学ボランティアの方に実際に医療通訳ボランティアとして協力して頂くためには、医療通訳に関する基礎的な講座を開き、研修を行うことが必須となります。当プロジェクト委員会では「MIC かながわ」の協力を得て、下記要領で語学ボランティア対象の研修を行います。

～*～医療通訳ボランティア講座～*～

講師:アビー・ニコラス・フリー氏

(MICかながわ 英語医療通訳スタッフ)

3月13日(日)午前:医療通訳とは。医療通訳の心構え

午後:医療通訳ロールプレイ

医療通訳ボランティア調査研究プロジェクト委員会

清水久美子

外国人市民会議が提言書を提出

八王子市では、市民と在住外国人市民が相互理解を深め、「外国人市民も共に暮らしやすいまちづくり」を進めるために、平成18年から「外国人市民会議」を設置しています。

第1期は「子どもの教育」、第2期は「医療と住居」をテーマとして、市長へ提言書を提出いたしました。第3期は「就労と防災」というテーマで、森茂岳雄中央大学文学部教授を座長に、外国人市民5人を含む11人の委員が、意見交換や議論を重ね、23年1月21日、市長に提言書を提出しました。

八王子国際協会では、この提言書を踏まえて、八王子市と協働で、さらに暮らしやすいまちづくりをめざしていきます。

外国人の在留資格に関する研修会の報告

1月29日(土)、「ボランティアが知っておきたい外国人の在留資格」と題して、行政書士の高崎鉄也氏(協会理事)から、平成24年外国人登録制度に代わり在留カードが導入される話、在留資格と就労、国際離婚に伴う子どもの親権など、具体的な事例を交えながらの話を伺いました。約30人の参加者の理解も深まったようです。

委員長会議を実施

2月16日(水)10時から、委員長会議を開催しました。各委員会から、現時点の実施事業と次年度の事業計画等の報告と打ち合わせが行なわれました。